

めいろうこども園 外部評価委員会報告

- ・ 日 時 : 令和7年8月10日(月)
午後2時～3時15分
- ・ 場 所 : めいろうこども園内 旧図書室

- ・ 評価委員
深田 健 市福祉事務所子育て支援係長
岡留竜一郎 父母の会 令和7年度会長
廣瀬麻衣子 父母の会 令和7年度役員
遠藤 雅晶 発達支援施設 オリーブ施設長

- ・ こども園職員
園師 和俊 園長
森山 雅代 副園長
松田美奈子 主幹保育教諭



○保育参観 各学年別の保育

○協議内容

- ・ 令和7年度年間活動振り返り報告(PowerPoint)
- ・ 保護者による園評価(令和7年度分)分析
- ・ 保護者による自由意見(令和7年度分)分析
- ・ 職員による自己評価(令和7年度分)分析
- ・ 今後の課題及び運営に関する意見交換

○園評価を踏まえた考察

- ・ 園長: 保護者から保護者が使用できるトイレを増やして欲しい要望があった。増設するスペースが取れず難しい状況であったが、子供用トイレの奥にあったシャワールームを改築して、大人用及び幼児用トイレを各一基設置することが出来た。また、体育館の雨漏りに関しては、予算を鑑みても効果的な解決策を見いだしていない状況である。引き続き、業者と解決策を検討していきたい。

また、退職する職員の報告をもう少し早くして欲しいとの要望があった。通常は早めに報告を心掛けているが、職員本人及び縁側とも様々な事情もありギリギリになってしまった。ご理解いただくよう丁寧をお願いをしたところである。

未就園児クラスを実施して欲しいとの要望があったが、現状の職員体制での実施は困難である。ただ、在園生およびその弟妹が降園時に園庭で遊ぶ姿はよく見られ定着しつつある。

乳児の受入れや子育て支援等の事業実施に関しては、まずは携わる人員の確保が最優先と考えている。今年度、高齢になって数十年ぶりに帰郷した元職員が復帰した事例も有るので、諦めずに資格者を探していきたいと考えている。

- ・ 森山: 今般、必要があってインスタグラムを開設した。想定以上に承認を求めてくる方があることに気付かされた。種子島や本園で働くことの魅力を発信したいが、どこまで情報を開示したら良いのかを確定し、早急に進めていきたい。

また、園児数及び世帯数も少なくなってきたので、保護者との関わりを今まで以上に深めて、園の魅力を発信していきたい。

- ・ 深田: 多くの保育施設において、現在も人材不足が続いている状況が見られる。昨年度、東京において、離島協議会主催の移住者向けの説明会に参加した。数名の移住者雇用の実績があった。本年度も参加を予定しているので、引き続き採用支援を行っていきたい。

○自己評価を踏まえた考察

- ・ コドモンの利用等、ICT機器の活用による業務効率化の検証や研修を推進していく。

○今後の課題

異動者を除いて満3歳以上児からの入園が皆無に等しい状況である。そのため、今後の本園運営の維持継続には、0・1歳の乳児入園の積極的受入れが避けられないと実感している。支援員のサポートも含めて職員全体で保育体制の工夫に知恵を抱いていきたい。

○まとめ

本園は認定こども園として12年間運営をさせていただいている。地域の中で安心して教育・保育を委ねられる存在を目指して、日々研鑽を積む努力をしているところである。ここ数年は、急激な少子化から多くの困難も経験しつつ、安定した運営が許されてきてまことに感謝である。一層少子化の状況も激しくなると思われるが、常に建学の精神に立ち返り、今後も乳幼児の健全な育ちを担保できる質の高い保育を目指していく覚悟である。今回も関係者評価委員の方の率直な意見や提案に心から感謝を献げたい。